

～米作りをとおしてふるさとに貢献したい～

有田 豊史・亜佳さん(鬼北町(広見町))

〈豊史さん〉(株)あう農園代表取締役 1970 年生まれ

〈亜佳さん〉鬼北町農業委員 1971 年生まれ

フェイスブック <https://www.facebook.com/aritawawa/>
<https://www.facebook.com/autawawaya/>



☆経営概況☆

平成29年6月に法人「あう農園」を設立し、加工場と併せて従業員6名を雇用しています。

主な栽培品目は、主食米30ha、飼料稲4ha、加工用米4ha。水稻の裏作として、大麦若葉の契約栽培10ha。作業受託(収穫50ha、乾燥・調製180t)。それ以外に、柚子40a、キウイ10a、露地野菜など。

米の販路は、ほぼ県内外の個人・飲食店で、地元の道の駅「森の三角ぼうし」でも販売しています。

「一次産業女子ネットワーク・さくらひめ」の商品開発プロジェクトに参加し、松山三越のお中元・お歳暮用に、さくらひめメンバーの県内養鶏農家とのセット商品を提供し、多くの消費者に利用して頂きました。

☆ここがポイント☆

豊史さんは「農業には可能性がある!」と、松山での15年間のサラリーマン生活に終止符を打ち、平成22年夏、二人のふるさと「鬼北町」にUターンし就農。社名「あう農園」の「あう」は、亜佳さんが松山で経営していたカフェの名前をつけました。

最初は豊史さん一人での農業でしたが、圃場面積の拡大により、平成26年から夫婦二人での農業に変更。米の栽培管理・経営は豊史さん、米の販売・営業は亜佳さんが担当。

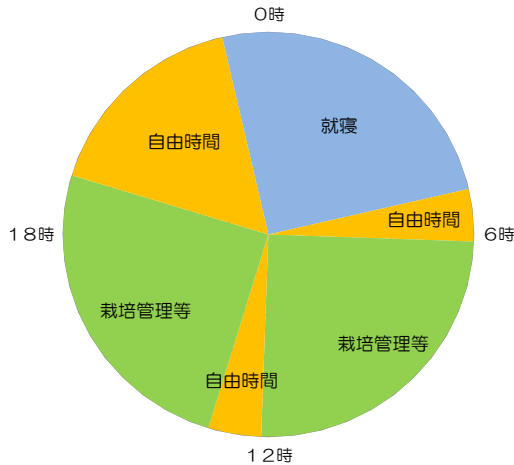
先を見越した経営計画をたて、柔軟な対応力で独自の米の栽培方法を確立し、高い品質の米作りに努力する豊史さん。お客様との出会いを大切にし、こまめな連絡やサービスでお客様との関係を築くのが得意な亜佳さん。夫婦が互いに相手の得意なところを認め、互いを補い合う販売方法がお客様との強い絆を作り、リピーターを増やす結果となっています。

作業受託は、米の販売以外で会社の大きな収入源となっており、田植え・稲刈り等の機械作業と、米の乾燥調製の請負が従業員の仕事にもなっています。ふるさと鬼北町の農業を守るためにも、農地の集積・雇用拡大は必須で、今後も機械や設備等の充実を図り、担い手育成にも力を入れていきます。



養鶏農家とコラボした三越のお歳暮

【一日のライフスタイル（一例）】



【普段の生活について】

亜佳さんの楽しみは、録画してあるWOWOWの映画や海外ドラマをひたすら消化すること。
（録画が増える一方でなかなか減りません。。）

【一週間のライフスタイル（一例）】

月	火	水	木	金	土	日
【繁忙期】	← 栽培管理・収穫・出荷 →					休日 →
【普通期】	← 栽培管理 →					休日 →



あう農園を支える社員



加工場「田わわ家」のもち

☆これからの夢や目指すもの☆

6次産業化対策として、29年末に米の加工場「田わわ家」をオープンさせ、年末用の餅の受注生産・販売を手掛けました。今後、赤飯、餡餅、おはぎ等と少しずつ商品を増やし、おにぎりや惣菜・弁当の生産販売により魅力をアップさせたいです。

加工場の近くには他に店屋が無く、買い物に困っている地域の方たちの力になりたいです。そして雇用を生み出す場所になりたいです。鬼北の米生産者として「自信を持ってお届けできる鬼北産米」のPRに力を入れ、鬼北町の米作りの現場を活気づかせるとともに、それを地域貢献にうまく繋げていきたいです。

☆メッセージ☆

「育てて、伝えて、繋げる。」作物も、人も、会社も、全て育てなくてはならないし、それを繰り返し繰り返し続けていくことが大切。

でも、継続させるためには、苦しいことばかりではダメ。楽しいと思える要素やワクワクする魅力がなくては、誰もやりたいと思わないし、始めても続けていくことはできません。農業にはそんなワクワクや無限の可能性が広がっています。その魅力を若い人たちに教えてあげられたら嬉しいです。